第71回研究大会プログラム

JAPAN SOCIETY for the STUDY of ADULT and COMMUNITY EDUCATION: the 68th Annual Conference

日 時 2024年9月6日(金)~8日(日) 会 場 早稲田大学 早稲田キャンパス

共 催 早稲田大学教育・総合科学学術院

9月	12:		12:3	0 ~	13:00 ~ 15:30		15:45 ~ 18:15		18:30 ~ 20:30
金	受付			特別プロジェクト 「社会		「社会教育	ジェクト研究 『学における余暇・ ーションの再検討」	若手研究者 の集い	
7 _□	9 ~	9:30 ~ 11:30	昼	ı	2:30 ~ 14:30		: 45 ~ 6 : 15	16:30 ~ 18:00	18:15 ~ 20:30
土	受 付	自由研究発表	食		自由研究発表	倫	理研修	総会	懇親会
	9 ~	9:30 ~ 12:00			13:00 ~ 1	6:00			
8日日	受付	プロジェクト研究 「多文化・多民族共生を目 社会教育の挑戦」 「男女平等・ジェンダー公正 ぐる課題と社会教育の可能	指すをめ	昼食	ラウンドテー ①~⑦		L		

- ※当日の参加受付はありません。参加申込み方法については3ページを参照のこと事前参加申込みシステム受付期間 8/5(月) $\sim 8/25(日)$
- ※全国理事会は9/2(月) 20:00~オンラインでの開催を予定しています。
- ※自由研究発表者は発表要旨を下記受付期間内に<自由研究発表要旨投稿システム>にご提出 ください。また参加申込みもお忘れなく! 要旨受付期間:7/12(金)~8/11(日)

【目次】	
◇第 71 回研究大会・ご案内	2
◇第 71 回研究大会への参加について	3
◇会場案内	
早稲田大学へのアクセス	4
早稲田大学建物配置図	5
会場一覧	6 7
	,
◇第1日目(9月6日)プログラム 特別プロジェクト	9
プロジェクト研究「社会教育学における余暇・レクリエーションの再検討」	10
若手研究者の集い	10
◇第2日目(9月7日)プログラム	
自由研究発表 第 1 室 ~ 7 室	11
倫理研修会/総会/懇親会	19
◇第3日目(9月8日)プログラム	20
プロジェクト研究「多文化・多民族共生を目指す社会教育の挑戦」	20
プロジェクト研究「男女平等・ジェンダー公正をめぐる課題と社会教育の可能性」 ラウンドテーブル①~⑦	21 22
	~~

■ご案内

(1) 受付案内

①会場案内は4頁、教室案内は6頁をご参照下さい。 *敷地内禁煙です

②受付設置場所・時間はつぎのとおりです。

1日目 (9/6): 12:30~16号館1階

2日目 (9/7): 9:00 ~ " 3日目 (9/8): 9:00 ~ "

(2) 参加費等

※会員の研究大会への参加は、事前申込みとします。

①参加費

会 員:一般 2,500 円(但し、学会に院生登録している方は 1,500 円)

非会員:一般・大学院生 2,500 円、大学生 0 円 (学生証提示)

②懇親会費(9/7)

一 律 4,000円(懇親会参加も事前申込・事前支払)

③昼食

構内の学食、大学周辺に飲食店多数ありますが、土日休業のところが多いのでご注意ください。 駅周辺の飲食店やコンビニをご利用ください。 ※会場でのお弁当販売はありません

④ 70 周年記念国際シンポジウム (9/14 オンライン開催)

一般:1,500円、学生・院生:1,000円

※研究大会の参加申込み時に一緒に申し込みを受け付けます。

・尚、準備の都合上、事前申込後のキャンセルの場合(台風等の天災による場合も)返金には応じられませんのでご了承ください。

(3) 会場案内 *各プログラムの会場は6頁参照

①参加者控室②大会本部・三役控室・事務局3総会16 号館 402-214 号館 201

4) 懇親会 大隈ガーデンハウス2階

⑤ 若手研究者の集い 16 号館 306

⑥図書販売 場所について大会当日受付で確認してください。

(4) その他

・発表者は、当日配布資料がある場合、<u>会場でのコピーは出来ません</u>ので、事前に十分な部数(約 50 部)をご用意下さい。

(5) 問い合わせ先

坂内夏子(早稲田大学)

E-mail: syakyoutaikai2024@list.waseda.jp (原則メールでのお問い合わせをお願いします)

電話:03-3204-8253 (研究室)

〒 169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1 早稲田大学教育学部 坂内夏子研究室

■第71回研究大会への参加について

参加受付は事前申込みのみとさせていただきます。

参加費の振込みのみ、または参加申込みのみだけでは参加受付とはなりません のでご注意ください。

参加希望の方は、学会ホームページよりオンライン参加登録手続きを行っていただきます。(オンラインで手続きが出来ない場合は、事務局までご連絡いただければ手続きいたします。)

尚、要旨などの配布はご登録のメールアドレスに通知いたしますので、メールアドレスの登録はお間 違えの無いようお願いいたします。

要旨集等については9/6 (水)までにメールでご案内いたします。大会前日になってもご案内が届かない場合は事務局までお知らせください。

※準備の都合上、お申込み後のキャンセルはご遠慮ください。

●オンライン事前参加申込受付:8/5(月)~8/25(日)

学会HPのトップ画面にある<研究大会参加申込システム>から参加登録をしてください。当日 受付はございませんので、必ず事前申込をお願いいたします。

会員の方は、申し込みの際には会員 ID(ログイン ID) を必ず記入し、所属は学会に登録してある 所属先を記入してください。

非会員の学部生は、学生証を添付の上、参加費無料になります。

●参加費の支払い: 事前振込(遅くとも8/26(月) までに)

こちらで入金の確認が出来ない場合は参加申込みを受付出来ない場合があることご了承ください。 <振込先> ゆうちょ銀行 振替口座 00150-1-87773

他金融機関からの振込用口座番号 〇一九(ゼロイチキュウ)店(019)当座 0087773

口座名:日本社会教育学会

振込金額: [会 員 一般¥2,500、大学院生¥1,500]

[非会員 一般¥2,500、大学院生¥2,500]

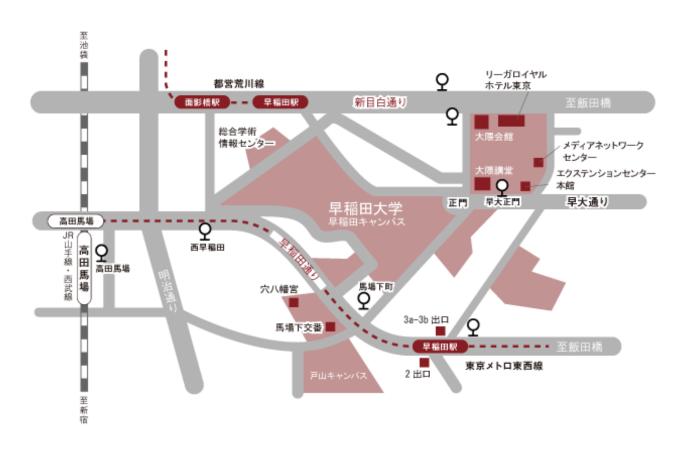
振込みの際には、必ず氏名(所属)をご記入ください。

日本社会教育学会事務局 《HP https://www.jssace.jp/》

〒 189-0012 東京都東村山市萩山町 2-6-10-1F

E-Mail: jssace.office@gmail.com

■早稲田大学(早稲田キャンパス)へのアクセス



●アクセス

JR山手線 高田馬場駅から徒歩 20分

西武鉄道 西武新宿線 高田馬場駅から徒歩 20分

東京メトロ 東西線 早稲田駅から徒歩 5分

東京メトロ 副都心線 西早稲田駅から徒歩 17分

都バス学 02 (学バス) 高田馬場駅発「早大正門行」乗車「西早稲田」バス停から徒歩 2 分東京さくらトラム (都電 荒川線) 早稲田駅から徒歩 5 分

■早稲田大学内建物配置図



■会場一覧

9月6日(金)

16 号館	1階
//	1階 106
//	1階 106
//	4階 411
	//

9月7日(土)

mmmmmmmmmm	ammaniminiminimini	annamanamanamana	annananananananananananananananananana
付		16 号館	1階
研究発表	第1室	//	3階 301
研究発表	第2室	//	3階 303
研究発表	第3室	//	3階 304
研究発表	第4室	//	3階 306
研究発表	第5室	//	3階 307
研究発表	第6室	//	3階 309
研究発表	第7室	//	4階 403
研修		14 号館	2階 201
会		//	2階 201
会	大隈ガー	-デンハウス	2階
	付研究発表 研究発表表 研究発表表 研究 研究 研究 究 発 表表表 表表表表表表表表表表	付 研究発表 第 1 室 研究発表 第 2 室 研究発表 第 3 室 研究発表 第 5 室 研究発表 第 6 室 研究発表 第 7 室 研究発表 第 7 室	付 16 号館 研究発表 第 1 室 " 研究発表 第 2 室 " 研究発表 第 3 室 " 研究発表 第 5 室 " 研究発表 第 6 室 " 研究発表 第 7 室 " 研修 14 号館 会 "

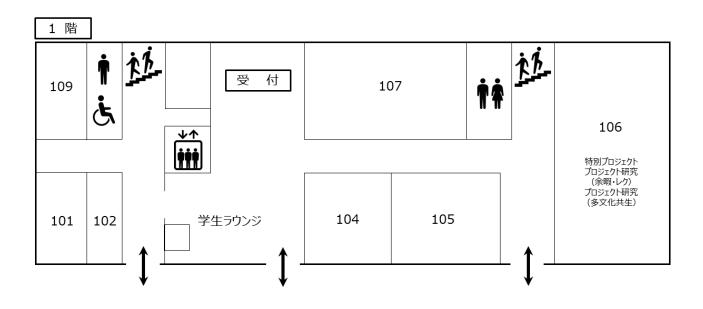
9月8日(日)

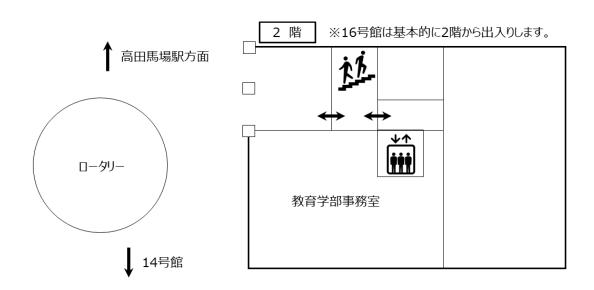
受 付 16	号館	1階
プロジェクト研究<第1室>	//	1階 106
プロジェクト研究<第2室>	//	3階 305
ラウンドテーブル (RT) ①	//	3階 306
ラウンドテーブル②	//	3階 301
ラウンドテーブル③	//	3階 303
ラウンドテーブル④	//	3階 304
ラウンドテーブル⑤	//	4階 403
ラウンドテーブル⑥	//	4階 404
ラウンドテーブル⑦	//	4階 409

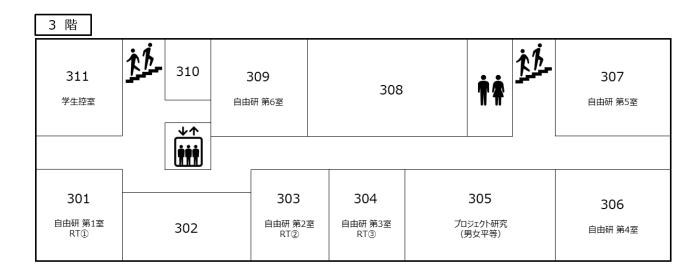
9月6・7・8日

学生控室	16 号館	3階311
参加者控室	//	4階 401
打ち合わせ室 A	//	4階 402-1
大会本部・三役控室・事務局	//	4階 402-2
打ち合わせ室 B	//	4階410

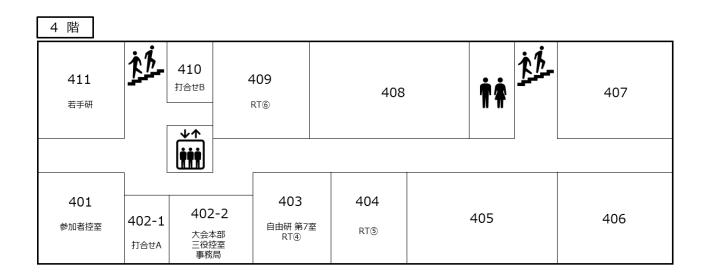
■ 16 号館案内図 (1,2,3 階)



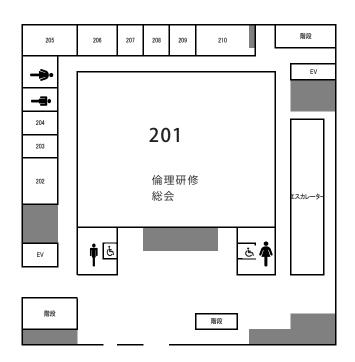




■ 16号館案内図 (4階)



■ | 4 号館案内図 (2 階)



第1日目 9月6日(金)

社会教育士特別プロジェクト

「社会教育関連専門職をめぐる国際的動向」

| 13:00~|5:30 | 16 号館 | 階 | 106

司 会 村田晶子(早稲田大学)

報告者 松田弥花、李正連、岩橋恵子、大安喜一、河野明日香、帆足哲哉、渡辺幸倫

(以上所属略:比較研究部会)

コメンテーター 石井山竜平(東北大学:主事講習部会)

内田和浩(北海学園大学:研修・組織化・キャリア部会)

内 容 社会教育士特別プロジェクトとして第3回目、いよいよ蓄積をはじめたプロジェクトの 部会研究活動に基づく構成で報告を行う。今回は比較研究部会のとりくみを軸とし、プロ ジェクト全体として議論した論点に基づき、提案する。

昨年の社会教育人材部会の活動に続き、先の6月、社会教育法改正も見越した社会教育推進体制にかかわる中教審への諮問が行われた。社会教育士の登場を介した「地域コミュニティの基盤としての社会教育」への再構築の提案を前に、学会らしい活動・提案をもってのぞむことが本プロジェクトの役割であるだろう。

こうした動向も念頭に、プロジェクトとしては、①世界の関連専門職をめぐる全体的な潮流の把握、②各国における専門職の社会的位置の現状及びその背景、を中心に、構造的視野に基づく問題提起をお願いしている。ここから学会としての豊かな議論につないでいきたい。

比較研究部会では、計3回の研究会を設け、各国の社会教育関連専門職・リーダーの概要 と近年の動向について学んできた。本研究大会では、研究会の成果を踏まえて作成した比較表 に基づき、特に社会教育関連専門職・リーダーの国際的潮流及びそれら専門職・リーダーの社 会的位置づけについて、韓国、タイ、オーストラリア、ウズベキスタン、ドイツ、フランス、スウェー デンの文脈から話題提供を行い、日本における課題と照らし合わせた問題提起を行いたい。

部会では、専門職の歴史、実践領域や職場、法制度、資格制度、身分、他専門職との関連、養成や研修、職能団体の8つの軸を立て、比較表を作成した。日本の状況を踏まえ、部会内の議論で浮かび上がった論点として、①身分や職との関連、②大学における養成の意義、③称号の意味という3点が挙げられる。

①については、地域やコミュニティを支える専門職が世界的に注目されるなかで、国際的には、その身分が保障され就職にもつながる点が日本とは異なっているということである。関連して②は、「講習」という形式で養成する国は稀で、各機関で中長期間養成することが国際的には主流であると考えられる。さらに③は、専門職を「称号」とすることは独特であり、国際的にはディプロムや資格として明確化している点である。本報告が、日本の専門職研究の発展につながることを期待したい。

プロジェクト研究

「社会教育学における余暇・レクリエーションの再検討」

| 15:45~|8:|5 | 16 号館 | 階 | 106

テーマ 余暇・レクリエーションの視点から浮かび上がる社会教育学の成果と課題

司 会 青野桃子(大阪成蹊大学)

報告① 「PJのあゆみ」

歌川光一(聖路加国際大学)

報告② 「社会教育学における北田耕也論の継承の意義と課題」 歌川光一(聖路加国際大学)

- 報告③ 「社会教育学における「目的」と「手段」の構造―「自己教育」概念の再検討を通して―」 奥村旅人(京都大学)
- 報告④ 「「余暇」活動を支える教育政治のかたち 9条俳句掲載拒否事件を再びふり返る-」 荒井文昭(東京都立大学)
- 報告⑤ 「子ども・若者の趣味・余暇活動と社会教育学-研究の展望-」 執行治平(東京大学大学院)・杉山昴平(東京大学)
- コメント 萩原建次郎(駒澤大学)
- 内 容 6月集会、研究大会、公開研究会の各発表の成果(特に社会教育学の外延とも呼べるような研究対象の存在)に触れた上で、論点となるテーマについて報告する。

社会教育は住民の趣味・教養、健康に関わる活動の保障や地域文化の伝承に寄与している一方、社会教育学研究としてそれらのどの点を「学習」と捉えていくかは引き続き検討が必要である。これに関わって、研究の視点に関わる課題(社会教育学における大衆文化や消費文化の位置づけ方の特徴、「自己教育」概念の再検討)、地域における趣味・余暇活動の保障をめぐる研究上の論点(趣味・余暇活動を通じた表現の自由と学習権の関係、趣味・余暇活動と地域における)を中心に議論していく。

若手研究者の集い

18:30~20:30 16号館 4階411

内 容 日頃の研究で困っていることや相談したいことなどをテーマに、お菓子と飲み物を片手 に交流を行う予定です。話しにくいモヤモヤや、院生 / 研究生活の不安など、日頃相談で きないこともシェアできる場にできたらと思っています。

お腹のすく時間帯なので、ご自身の食べる物もご自由に持ち込んでください!

対象 大学院生・若手研究者(この間オンラインでしかお会いできなかった方、初めて学会 に参加した方など、多くの方との出会い・研究交流ができればと思います。なお年齢に関わらず、大学院在籍中の方、専任職に就いていない会員、専任職に着任して数年の会員 の方のご参加も歓迎いたします。)

第2日目 9月7日(土)

自由研究発表

午前 9:30~11:30 /午後 12:30~14:30 16 号館

(共同研究者は○印が登壇者)

第1室 午前 1. 原理論・歴史 ①原理論・思想

3階301

司 会 林 美輝(龍谷大学)

9:30~9:50 生成期におけるマルカム・ノールズの成人教育論

堀 薫夫(大阪教育大学名誉教授)

9:50~10:10 アメリカ合衆国成人教育成立過程の研究

―1950年代のシリル・フールの成人教育思想を中心に―

堀本麻由子 (東洋大学)

10:10~10:30 米国成人学生のための学修支援職の現状と課題

五島敦子(南山大学)

10:30~10:50 内発的発展論における「キー・パースン」の学習過程研究の方法論

―デューイから連なる学習理論の系譜を手がかりに―

村上竜雄(東京工業大学大学院)

10:50~11:10 城戸幡太郎による「教育地理学」概念の提起とその後の展開をめぐる検討

舩橋理仁(名古屋大学大学院)

(討議 $11:10 \sim 11:30$)

第1室 午後 1.原理論・歴史 ②歴史

3階301

司 会 関 直規(東洋大学)

12:30~12:50 戦間期労務管理論に見られる"教育"に関する検討

一労務管理全書の検討を中心として―

倉知典弘(吉備国際大学)

12:50~13:10 商店法下の商店街における店員指導事業

―北澤通商店街商業組合の店員道場を中心に―

江口 潔 (九州大学)

13:10~13:30 白樺青年の模索と創造 一小林多津衛の歩みに学んで一

○阿知良洋平(室蘭工業大学)、向井 健(松本大学)

13:30~14:10 昭和期における製糸工場内女子教育の展開

一山形県・郡是製糸長井工場の事例を中心に一

○安藤耕己(山形大学)、○竹淵真由(東京都教育庁)、 久井英輔(法政大学)、板橋孝幸(奈良教育大学)、 倉知典弘(吉備国際大学)、大蔵真由美(松本大学)、 栗山 究(法政大学・非常勤)

(討議 $14:10 \sim 14:30$)

第2室 午前 1.原理論・歴史 ②歴史

3階303

司 会 大村 惠(愛知教育大学)

9:30~9:50 社会教育学における戦後日本の農村女性の学習に関する研究の動向

-1900 年代の『月刊社会教育』の論説を中心に-陳 佳虹(東京農工大学大学院)

9:50~10:10 1960年代の旧産地筑豊地域における社会教育の検討

―「筑豊文庫」の役割と機能に注目して―

農中 至(鹿児島大学)

10:10~10:30 1970 年代における母親教育の模索 —平湯一仁の活動を中心に— 山梨あや (慶応義塾大学)

10:30~10:50 団地の「内」と「外」をつなぐ

1970年代における日吉団地と日吉社会教育推進会を事例として久井英輔(法政大学)

第2室 午後 2. 学習文化活動 ③学習主体(女性・子ども・親・外国人・高齢者など) 3階303

司 会 阿久澤麻理子(大阪公立大学)

12:30~12:50 合唱活動を通じた認知症者の社会的包摂と市民への意識啓発をめぐる動向

一カナダを事例として一

鈴木尚子 (徳島大学)

12:50~13:10 日本におけるパウロ・フレイレ教育思想の受容と展開

―小柳伸顕による釜ヶ崎での教育実践を事例に―

酒井佑輔 (鹿児島大学)

13:10~13:30 社会教育学研究における差別に関する考察

一第70回研究大会での差別発言問題を中心に一

野元弘幸 (東京都立大学)

13:30~14:10 全国識字学級実態調査からみえてきた現状と課題

○菅原智恵美(大阪公立大学)、○森 実(大阪教育大学名誉教授)、

上杉孝實(京都大学名誉教授)、新矢麻紀子(大阪産業大学)、

棚田洋平(一般社団法人 部落解放・人権研究所)

(討議 $14:10 \sim 14:30$)

第3室 午前 2. 学習文化活動 ③学習主体(女性・子ども・親・外国人・高齢者など) 3階304

司 会 石井山竜平(東北大学)

9:30~9:50 市場化・自己責任化する子育てに抗する「母親」の文化権に関する考察

一権利基盤型アプローチからケアする/される市民を考える―

齋藤梨津子(早稲田大学大学院)

9:50~10:10 こども基本法における文化権の検討

角 亮典(早稲田大学)

10:10~10:30 子育て期を過ごす成人が地域に参加・参画して学んでいること

宮嶋晴子(九州女子短期大学)

10:30~10:50 占領期八重山群島における青年団運動と復帰運動をめぐる一考察

○山城千秋 (熊本大学)、農中 至 (鹿児島大学)

第3室 午後 2. 学習文化活動 ④学習方法・学習過程、学習の組織化、実践分析など 3階304

司 会 若原幸範(聖学院大学)

12:30~12:50 「実践の伏流水」を探る:うらほろスタイル前史としての農村社会教育 添田祥史(福岡大学)

12:50~13:10 農業小学校を巡る社会教育の可能性

吉村 親(静岡県立農林環境専門職大学短期大学部)

13:10~13:30 生涯学習プラットフォームとしての「サマーセミナー」がコミュニティの 社会関係資本に及ぼす効果

○佐藤智子(東北大学)、金亨善(東北大学)

13:30~13:50 「私も参加していいの?」 —社会教育委員・関係職員の協働を通じた 市民自治を支える対話の場づくり—

二ノ宮リムさち (立教大学)

13:50~14:10 社会教育と環境教育の架橋による現代奄美における成人教育プログラムの 理論的検討 一奄美<環境文化>教育プログラムを中心に一 小栗有子(鹿児島大学)

(討議 $14:10 \sim 14:30$)

第4室 午前 2. 学習文化活動 ④学習方法・学習過程、学習の組織化、実践分析など 3階306

司 会 福井庸子(大東文化大学)

9:30~9:50 技術と子どもの創造性 一ヴィゴツキーの創造性論を中心に一 蔡越先(北海道大学大学院)

9:50~10:10 芸術家はなぜ社会教育士という選択をしたのか

鈴木理仁 (東北大学大学院)

10:10~10:30 社会教育における短歌表現活動

飯塚哲子(東京都立大学)

10:30~10:50 新型コロナウイルスを綴る「自分史」の研究

川原健太郎(作新学院大学)

3階306

司 会 倉持伸江(東京学芸大学)

12:30~12:50 社会教育主事課程での学びが地方公務員試験の合否に与える影響

三宅隆史(立教大学)

12:50~13:10 社会教育主事講習における現地演習の取組と成果

○高橋平徳(愛媛大学)、山田 誠(愛媛大学)

13:10~13:30 社会教育主事のライフストーリーと自己形成

斉藤雅洋(高知大学)

13:30~14:10 社会教育実習を通じた学びの評価方法の検討

○荻野亮吾(日本女子大学)、○中川友理絵(日本女子大学)

(討議 $14:10 \sim 14:30$)

第5室 午前 3.職員 ⑥支援方法・条件整備

3階307

司 会 井口啓太郎(国立市役所/東洋大学大学院)

9:30~9:50 韓国・平生教育士の職能団体の現状と課題(その1)

内田和浩 (北海学園大学)

9:50~10:30 公民館への主事配置のあり方に関する事例研究

- 一飯田・下伊那地域社会教育史の研究(1)―
 - ○朝岡幸彦(白梅学園大学)、○小島一人(飯田市役所)、
 - ○木下巨一(松本大学・非常勤)、○向井 健(松本大学)

10:30~11:10 公務非正規専門職女性の力量形成における現状と課題

- ―職場環境と雇用条件からの検討―
 - ○廣森直子(大阪信愛学院大学)、
 - ○小河洋子(神戸女子大・非常勤)

(討議 11:10~11:30)

司 会 石川敬史(十文字学園女子大学)

12:30~12:50 COVID-19 期を中心とする英米ミュージアムの経営分析

瀧端真理子(追手門学院大学)

12:50~13:10 地域博物館論形成過程の考察

―1960 年代豊橋向山天文台活動の展開を中心に―

栗山 究(法政大学・非常勤)

13:10~13:30 高砂市立図書館における市民・職員・大学生を主体とする

生涯学習活動に関する研究

山下 香(甲南女子大学)

13:30~13:50 コミュニティ・ストーリーの再編集装置としての図書館

宮﨑隆志 (北海道文教大学)

13:50~14:10 社会教育施設の指定管理者制度について 実践と研究報告

―地域との関りの中で―

西尾征樹(一般社団法人 コミュニティエデュー)

(討議 $14:10 \sim 14:30$)

第6室 午前 4. 学習機会 ⑧社会教育関係団体、ボランテイア、NPO、NGO など

3階309

司 会 南出吉祥(岐阜大学)

9:30~9:50 「子どもの貧困」にまつわる課題に取り組むアートプログラムのアクション

リサーチ

酒井雅代 (東京藝術大学)

9:50~10:10 子ども会活動の今日的意義と再生に向けて

―北海道・東北地方の青年リーダー組織の事例から―

阿部隆之(伊達市立大滝徳舜瞥学校)

10:10~10:30 児童館における子ども参加・参画実践と職員の専門性について

吉川恭平(東北大学大学院)

10:30~10:50 ユースワーカーのリフレクションのあり方の考察

―プロンプトワークモデルの取組み事例より―

佐渡加奈子(社会構想大学院大学)

(討議 10:50~11:30)

司 会 梶野光信(日本大学)

12:30~12:50 ジェンダーの視座からみる杉並の PTA 史

赤池紀子(自治体男女共同参画推進センター)

12:50 ~ 13:10 PTA と教育自治:戦後教育改革期の PTA 構想に関する一考察

金亨善(東北大学)

13:10~13:30 学社連携の蓄積を基盤とする自治への参画に向けた青年の学習の展開

吉田弥生(北海道大学)

13:30~13:50 能登半島地震の現状と社会教育支援の課題

一大学開放セクションの取り組みから―

藤田公仁子(富山大学)

(討議 $13:50 \sim 14:30$)

第7室 午前 6.地域・地域問題 ⑪子育て、学校、地域課題など

4階403

司 会 大安喜一 (ユネスコ・アジア文化センター)

9:30~9:50 地域社会の再編と社会教育・生涯学習Ⅲ

一地区公民館と自治公民館の関係に着目して一

植村秀人(南九州大学)

9:50~10:10 モンゴル国遠隔集落住民の生活と CLC

一フブスグル県ハタガル村の事例より―

○ DAGVADORJADIYANYAM(東北大学)、松本 大(東北大学)

10:10~10:30 長期継続学習者にとっての公民館学習の意味

一都市公民館の活動者インタビューより―

中尾友香(中央大学大学院)

10:30~10:50 中国上山下郷運動に関わった高齢期知識青年の生きがい意識と学習要求

―前期と後期知青の比較検討を踏まえて―

趙天歌(早稲田大学 教育・総合科学学術院)

司 会 橋田慈子(神戸大学/日本学術振興会特別研究員 -PD)

12:30~12:50 グローバル化する社会に向けてのイギリスの文化施設における

教育プログラムに関する一考察

永田祥子(学習院大学)

12:50~13:10 ドイツにおける学校卒業後の障害者の学びの場

記伊実香(早稲田大学大学院)

13:10~13:30 パレスチナにおける文化的抵抗運動の考察

―ジェニン難民キャンプのフリーダム・シアターの実践から―

齋藤真哉(駒澤大学・非常勤)

13:30~14:10 メディア情報リテラシーと社会教育の課題:ネパールでの実践から

○坂本 旬(法政大学)、○長岡智寿子(田園調布学園大学)

(討議 14:10~14:30)

倫理研修

「現代社会における差別の変容—『差別をする人の研究』に取り組んで」 |4:45~|6:|5 |4号館 2階20|

司 会 朝岡幸彦(白梅学園大学)

報告者 阿久澤麻理子(大阪公立大学)

コメンテーター 生田周二(奈良教育大学)

石川智士(埼玉中央法律事務所/学会顧問弁護士)

内容 差別は変容する。レイシズム研究は第一に、人権・多文化政策が進展すると、差別は「見えにくくなる」と指摘してきた (Bobo et.al., 1997; Bonilla-Silva, 2010)。あからさまに人を蔑む言動を社会が受容しなくなるからだ。但し近年、インターネットが、状況をさらに変えつつある。第二に、差別は個人の意識・態度だけの問題ではなく、社会システムに埋め込まれているとも指摘されてきた (Carmichael & Hamilton, 1967)。社会は、マジョリティに適合して出来ているので、マジョリティは「自分が労なくして優位な位置にある」ことには無自覚で、マイノリティの不利な状況にも責任を感じない。リベラルなマジョリティですら、「私は、差別的なことを言ったり、したりしないし、差別者ではない」とか、「私には、人種(民族、社会的出身、障害…など)なんて関係ない、どんな人にも『個人』として接している」と、マイノリティの存在を無化したり、「みんな同じ人間」などと超普遍主義を持ち出して、差別を温存してしまう (DiAngelo, 邦訳 2022)。 こうしたメンタリティゆえ、マイノリティ当事者から、「差別がある」と提起されると、マジョリティは「センシティブすぎじゃない?」と反応する。

かくして、差別言説も変容する。マジョリティは、そもそも差別はもう深刻な問題ではないと認識しているので、「差別があると、わざわざ主張するマイノリティは、差別を利用し、特別扱いを要求している」「努力せず、不当な特権を要求する」などと、ねじれた主張を立ち上げてしまう (McConahay,1986)。日本でも、ヘイトスピーチ団体が「在日特権」という用語を名称に使ったり、特権言説は、部落、障害者、沖縄、原発被災者にも向けられる。「差別がある」という声を叩き、封じ込めるこうした言説と差別の変容にどう向き合うのか考えたい。

総会

16:30~18:00 | 14号館 2階20|

懇 親 会

18:15~20:30 大隈ガーデンハウス 2階

第3日目 9月8日(日)

プロジェクト研究〈第1室〉

「多文化・多民族共生を目指す社会教育の挑戦」

9:30~12:00 | 16号館 | 1階106

テーマ 多文化・多民族共生における「差別」に向き合うために

司 会 酒井佑輔 (鹿児島大学)、佐野敦子(立教大学)

報 告 「大阪の識字・日本語学習をめぐる差別事象とその対応」

森 実(大阪教育大学名誉教授)

ワークショップ「当事者として差別に向き合う―傍観者になるのはなぜ?―」 三宅降史(立教大学)

内 容 本プロジェクト研究では、日本社会教育学会が取り組んできた研究から人権と民主主義の重要性を再認識する必要性を提起するとともに、対象別や地域間格差という切り口から現在における論点や課題を浮き彫りにしてきた。このような蓄積を踏まえつつ、昨年研究大会で差別発言があったことを受けて、今回の企画では、多文化・多民族共生における実践及び研究における「差別」をどう考えるべきかを取り上げることとする。

今回の企画においては、差別に対して私たちがどのように「当事者」として向き合うのか、 実際の事例やワークショップを通して共に考え議論することを目指している。

まず、大阪の識字・日本語学習の場からいかなる差別事象があり、それに対してどのように対応しているのか、主に 2019 年以降の動きを中心に、森実会員から報告して頂く。その際に、①事実として差別を認めるとともに対応への知見を学ぶこと、②再発を防ぐための学びとして、差別事象の教材化と学習に関してもお話して頂く予定である。報告内容を踏まえながら、三宅会員からは当事者として私たちはどのように向き合うのかを、参加者と一緒にワークショップを通して考える。ワークショップにおいては、①なぜ傍観者になるのかを理解し、②傍観者に留まらず、行動へと移すためにはどのようなことが考えられるのか、③当事者としての自覚や当事者性についての再認識をもってもらうことを目指す。

以上のように、多文化・多民族共生における「差別」をめぐる多面的検討を通して、多文化・ 多民族共生の領域における差別のことだけでなく、研究者や実践者である私たちの足元を問い直す企画にしたい。皆さんの学びを深めるためには、9月7日の倫理研修と9月8日のラウンドテーブル「社会教育学研究における差別問題について考える」も合わせて参加して頂きたい。

プロジェクト研究〈第2室〉

「男女平等・ジェンダー公正をめぐる課題と社会教育の可能性」 9:30~12:00 16号館 3階305

テーマ 新しい概念と創造的な学習実践への展望

司 会 池谷美衣子 (東海大学)、亀口まか (龍谷大学)

報告① 「ジェンダー/セクシュアリティ概念と社会教育・大人の学び」 冨永貴公(都留文科大学)

報告② 「包括的性教育を創造する教師たち」 村瀬桃子(山形県立米沢女子短期大学)

報告③ 「セクシュアリティをめぐる社会運動とクィアペダゴジー」 堀川修平(埼玉大学)

報告④ 「インターセクショナル・フェミニズムと解放への学習」 矢内琴江(長崎大学)

コメント① インターセクショナル・フェミニズムの視点から 瀬山紀子(埼玉大学)

コメント② 居場所・ユースワーク実践の視点から 阿比留久美(早稲田大学)

内容性別役割(1960~1970年代)、セクシュアル・ハラスメント(1970~1990年代)、ドメスティック・バイオレンス、セクシュアル・ヘルス/ライツ、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(いずれも1990年代)といった概念は、具体的な問題を乗り越えようとする現場で、個々の経験を意味づけ、それがどのような問題なのか、どのように問題なのかを理解し説明しようとする格闘(状況の中に問題を立ち上げていく問題化の過程)の中で共有化されてきた。こうした言葉(概念)の創造・獲得・更新にかかわるいとなみとしての社会教育実践は、今日、どこで、どのようになされているだろうか。そのいとなみはどのような条件や環境の中で可能になるのだろうか。これを考えるために、報告Iでは、2000年代に共有されるようになった新しい概念をレビューしつつ社会教育の実践や研究との関係を整理する。報告IIでは、包括的性教育の実践を創造する教師たちがどのような共同学習を生み出してきたのか、報告IIでは、それらを含め、セクシュアリティをめぐる社会運動を通してどのようにクィア・ペダゴジーは生み出されたのかを検討する。そして、報告IVでは、インターセクショナリティを志向するフェミニズム実践がどのような解放の学習を組織してきたのかを分析する。これらの報告に対するコメントを踏まえ、フロアからの意見を引き受けながら男女平等・ジェンダー公正を創造する学習実践への展望を拓きたい。

ラウンドテーブル

13:00~16:00 16号館

ラウンドテーブル(1)

3階306

テーマ:社会教育法改正を考える

コーディネーター 宮崎隆志(北海道文教大学)

岡 幸江(九州大学)

内 容 第 138 回中央教育審議会総会にて盛山大臣より「地域コミュニティの基盤を支える今後 の社会教育の在り方と推進方策について」の諮問がなされた。

あわせて 2027 年度の社会教育法改正予定も報道された。今回の動きは、社会教育推 進体制全般を再構築しようとするものであり、社会教育概念の刷新も連動する。

学会として、急速にすすむこの動きにどのように向き合いアクションすべきか。冒頭でで きるかぎりの情報共有・確認を行ったのち、報告者は設けず、

学会としての検討・アクションのありかたについて、会員が意見や知恵をもちよる自由討議の場をもちたい。

ラウンドテーブル②

3階301

テーマ: 社会教育施設概念の再検討(その1)

コーディネーター 青木加苗(和歌山県立近代美術館)、姉崎洋一(北海道大学名誉教授)

石川敬史(十文字学園女子大学)、生島美和(帝京大学)

金子 淳(桜美林大学)、栗山 究(法政大学・非常勤)

瀧端真理子(追手門学院大学)、長澤成次(千葉大学名誉教授)

報告 姉崎洋一(北海道大学名誉教授)

武居利史(府中市文化スポーツ部文化生涯学習課)

内 容 近年の社会教育・文化関連法制改編に伴い「教育委員会」を学校教育に狭め、図書館・博物館・公民館等の社会教育施設を「文化施設」と重ね合わせる傾向が現実的動向とと もに語られて久しい。

本ラウンドテーブルでは、その社会経済的背景、職員雇用待遇、自治体行財政など相互 規定的な力学の歴史的解明を通し、人びとの学びあいと自治を創造し保障する「社会教育 施設であること」の輪郭を再描出するキックオフ研究の集会としたい。

3階303

テーマ: 子ども・ユースワークの活動と専門性

一子ども・若者支援に携わる専門職の力量形成と研修等のあり方(6)―

コーディネーター 生田周二 (奈良教育大学)、川野麻衣子 (北摂こども文化協会)

水野篤夫 (ユースワーカー協議会)

報告 萩原建次郎(駒澤大学)

内 容 萩原会員から、子ども・若者の育成支援の取り組みの充実に資することを目的として 2023 年 10 月から 11 月にかけて実施された世田谷区児童館青少年交流センター職員アンケート調査について、子ども領域ならびに若者領域の専門職員の力量形成と専門性を中心に調査結果ならびにそれに基づく分析を報告してもらう。報告を踏まえて、具体的実践場面を想定した知識・技能・価値・センスの所在、養成・研修のあり方を深めたい。

ラウンドテーブル4

3階304

テーマ:人口減少社会における「高等教育と生涯学習」再考

コーディネーター 堀本麻由子 (東洋大学)、小栗有子 (鹿児島大学)

報告 出相泰裕(大阪教育大学)

上原直人(名古屋工業大学)

コメンテーター 鈴木尚子(徳島大学)、村田和子(和歌山大学(名))

内 容 高等教育・高等教育機関を主題にした研究プロジェクト(宿題研究)は、『高等教育と生涯学習』(1998)の刊行以来となる。現在、私立大学と国公立大学を問わず、18歳中心主義から脱却する大学として大学成人教育の重要性が増し、生涯学習概念の問い直しを踏まえた大学ガバナンスが求められる。大学開放の最新の研究動向を題材にして、社会教育研究としての問題の射程や検討すべき論点について出し合い、次につなげる会としたい。

ラウンドテーブル(5)

4階403

テーマ: 社会教育士のスキルの尺度の開発について

コーディネーター 三宅隆史(立教大学)、倉持伸江(東京学芸大学)

報告 三宅隆史(立教大学)

内 容 社会教育士にはファシリテーション、プレゼンテーション、コーディネーションのスキルの習得が求められている(文部科学省)が、これらを測定する尺度は存在しない。適切な尺度が開発されれば、養成課程・主事講習課程の履修生・受講者は自己のスキルの強みと弱みを、担当者は課程の効果・改善点を把握できるようになる。一方、オープンエンドな社

会教育実践において尺度を設定することの妥当性、有効性も問われなければならない。本 会合では尺度の素案を提示し、参加者と意見交換したい。

ラウンドテーブル6

4階404

テーマ: 東アジア地域における家族の記憶と文化継承

コーディネーター 新保敦子(早稲田大学)

報告 林雅音(台湾・中国文化大学)

松山鮎子(早稲田大学)

孫暁英(北京語言大学東京校)

万静嫻(早稲田大学)

コメンテーター 天童睦子(宮城学院女子大学)

内 容 本ラウンドテーブルでは、家族の記憶が世代間でどのように継承され文化の伝達が行われていくのかについて、日本、中国、台湾を比較しながら検討する。具体的には「台湾における食文化を通じての記憶の継承」(林氏)、「公民館を媒介としての家族の記憶の継承」(松山氏)、「在日外国人家庭での文化の継承―絵本に焦点をあてて」(孫氏)、「母から娘への記憶の伝達―江蘇省を事例として」(万氏)以上を予定している。

ラウンドテーブル⑦

4階409

テーマ: 社会教育学研究における差別問題について考える

コーディネーター 野元弘幸 (東京都立大学)、広瀬健一郎 (鹿児島純心大学)

報告 金侖貞(東京都立大学)

広瀬健一郎 (鹿児島純心大学)

野元弘幸(東京都立大学)

内 容 2023年の第70回研究大会において発生した差別発言問題は、被害者への謝罪のあり方 や再発防止の手続きだけではなく、社会教育学研究における差別について学術的にも考察 し、二度とこのような差別が発生しないような取り組みが求められている。差別発言問題へ の取り組みの関係者はもちろんのこと、差別に関心のある会員にも参加してもらい、事実に 即した透明性のある議論を行い、今後の取り組みについて多角的な視点から検討したい。

民衆の感じる痛みに応えようとして 生まれた自由大学

自由大学運動100周年記念東京集会論叢 大槻宏樹、片岡了、古市将樹、村田晶子、米山光儀(代表) 定価 2.750円(税込) 2024年 3 月刊行

2022年「自由大学運動100周年記念東京集会」が開 催された。集会の研究報告、寄稿論叢、自由大学に 関する基本資料、文献目録等関連資料を多数収録。

生涯学習概論〈第3版〉 -学びあうコミュニティを支える

小林繁•平川景子•片岡了(著) 定価 2,200円(税込) 2023年6月刊行

生涯学習について学ぶ学生、生涯学習に関心を寄 せる市民のための初学者向けテキスト。 〈第3版〉では社会教育士や学習支援者の役割と 力量形成の課題についても言及されている。



100.

躍動する韓国の社会教育・生涯学習

·市民・地域・学び

梁炳贊·李正連·小田切督剛·金侖貞(編著) 定価 4,400円(税込) 2017年6月刊行

韓国の市民の躍動を支える社会教育・生涯学習の 実践と政策を「市民・学び・地域」を切り口に描き出す。 金大中・盧武鉉のリベラル政権10年と、李明博・朴槿 恵の保守政権9年の動き、今後の展望を示す。



今だから明かす条例制定秘話〈第2版〉

-川崎市子どもの権利条例施行20周年記念出版

かわさき子どもの権利フォーラム(編集) 定価 1,540円(税込) 2024年3月刊行

「川崎市子どもの権利条例」施行から20年。子どもた ちがなぜ条例制定に関わり、どのように「権利=わがま ま論」と対峙したのか。自治体関係者や「子どもの権 利」に関心をもつすべての方必見の書。

共生への学びを拓く

-SDGsとグローカルな学び

佐藤一子・大安喜一・丸山英樹(編著) 定価 2.530円(税込) 2022年4月刊行

多様な教育・学習機会の拡充とともに市民団体な どが連携し、生きづらさをかかえる人とともにどう生 きるか、社会から取り残されている人への支援をど う構築するか、実践レベルから課題と展望を探る。





大都市・東京の社会教育 ―歴史と現在

東京都社会教育史編集委員会(編)、小林文人(編集代表) 定価 4,950円(税込) 2016年9月刊行

戦後70年にわたる大都市・東京の社会教育・市民 教育の流れ、歴史的特徴を明らかにすること、風化 しつつある事実を記録し、稀少な史料・証言を収録 することにより、これからの社会教育・生涯学習の可 能性や展望を切り拓こうとする。



〒102-0073 東京都千代田区九段北4-1-9

TEL. 03-3234-4641 FAX. 03-3234-4644 http://www.eidell.co.jp

生涯学習と地域づくり のハーモニー 一社会教育の可能性

●田中雅文 監修/柴田彩千子·

宮地孝宜·山澤和子 編著

定価2,200円

「生涯学習」研究に取り組んできた執筆者が、「学校と地域」「共生社 会」「子育て支援」「おとなの学び合い」をテーマに編纂した実践論集。

動物園と水族館の教育

-SDGs・ポストコロナ社会における現在地

●朝岡幸彦 編

定価2.090円

博物館としての動物園・水族館の位置づけを確認し、コミュニティ 機能を強めつつある動物園・水族館の未来を見据える。



生涯学習と地域づくりの

「ESD でひらく未来」シリーズ 社会教育・生涯学習論 改訂版

―自分と世界を変える学び

●鈴木敏正·朝岡幸彦 編著

定価2,090円

定価3.850円

社会教育・生涯学習の基本について地域での実践例を通し理解を深める。

学校教育、社会教育および地域社会における取り組みの比較を通して



社会教育·生涯学習譜

日本と韓国の法制度や政策、言語的・文化的な教育活動を比較。 生涯学習支援の基礎

●小池茂子·本庄陽子·大木真徳 編著 定価2.530円

社会教育経営の基礎

●山本珠美·熊谷愼之輔·松橋義樹 編著 定価2,750円

パブリック・アチーブメント/シティズンシップ教育シリーズ 人生を拓き、社会を創るために、「地域」と「世界」のそれぞれから「とっかかり」をつかむテキスト。

定価各2.090円

人生を拓く・社会を創る

●池谷美衣子・田島祥・二ノ宮リムさち 編著

社会参加の制度や、社会を動かす集団的な力の重要性と方法、日常 生活を通じた社会参加について学ぶ「シティズンシップ」のテキスト。

地域から学ぶ・世界を創る

●二ノ宮リムさち・高梨宏子 編著

バブリック・アチーブメントの理念を基礎に、自らの関心から地域と世界 の課題を探求し、地域と世界でどう取り組むかを考えていく。



人生を拓く・ 社会を創る



読書教育のすすめ ―学校図書館と人間形成

●立田慶裕 編著

定価2,970円

人間の発達に応じた読書教育、特に学校図書館の役割について明らかに。



批判的思考と道徳性を育む教室

一「論争問題」がひらく共生への対話

●ネル ノディングス・ローリー ブルックス 著

定価2.970円 山辺恵理子 監訳/他訳

答えの出ない問題をどう扱い子どもたちと考えるか。対話が紡ぐ共生の道。



近代日本の大学拡張 一「開かれた大学」への挑戦

●山本珠美 著

定価9.240円

日本の高等教育機関における大学拡張の歴史を5期に分けて論じる。

〒153-0064 東京都目黒区下目黒3-6-1 http://www.gakubunsha.com

学文社

Tel 03-3715-1501(代) Fax 03-3715-2012 E-mail: eigyo@gakubunsha.com

これからの地方創生・関係人口

一関係人口から持続可能な地域の創り手へ

岩本 泰 編著

A5判/並製/160頁 定価 2,200円



新SDGs論

一現状・歴史そして未来をとらえる 田中 治彦 著 四六判 / 並製 /160 頁 定価 2,090 円



持続可能な社会をつくる 幼児期のESD論一子どもと環境 降旗信一・菊池 稔 編著



生涯学習と社会教育の基礎

津田 英二・伊藤 真木子・鈴木 眞理 編著 A5判/並製/192頁 予価 2,420円

近刊

ワーク・ライフ・バランスと生涯学習

新刊

小川 誠子 著

-すべての働く人々のために

A5判/並製/160頁 定価 2,200円

DX時代の人づくりと学び

降旗 信一・金馬 国晴・ 加納 寛子・佐々木 豊志 編著 A5判/並製/160頁 定価2,200円

A5判/並製/160頁 定価2,200円



「ミュージアムABCシリーズ 〈全3巻〉

ビジュアル博物館学 Art 水嶋 英治・小泉 優莉菜・佐々木 淑美 編著 B5判/並製/168頁 定価 2.530 円



ビジュアル博物館学 Basic 水嶋 英治・髙橋 修・山下 治子 編著 B5判/並製/168頁 定価 2.530円

社会教育・生涯学習入門

一誰ひとり置き去りにしない未来へ 二ノ宮リム さち・朝岡 幸彦 編著 A5判/並製/160頁 定価 2,200円



にん げん どう

人 言 洞〈NingenDo LLC〉 〒234-0052 神奈川県横浜市港南区笹下 6-5-3

mail info@ningendo.net website https://www.ningendo.net



日本社会教育学会 第71回研究大会プログラム 2024年8月1日発行 第2版(8月8日)

【発行】日本社会教育学会事務局

〒 189-0012 東京都東村山市萩山町 2-6-10-1F

E-mail: jssace.office@gmail.com http://www.jssace.jp/

【会費等納入先】

ゆうちょ銀行 振替口座 0 0 1 5 0 - 1 - 8 7 7 7 3 (口座名:日本社会教育学会) 他金融機関からの振込用口座番号 〇一九(ゼロイチキュウ)店(019)当座 0087773